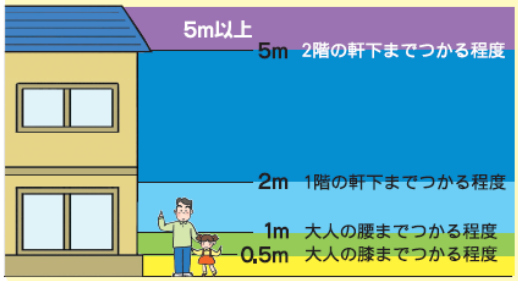
洪水ハザードマップの活用方法

1 マップを見てご自分の家の位置を確認しましょう。 P10～P45

●自分の家がどのくらい浸水する可能性があるのかを知っておきましょう。

●自分の家の周辺では、どの地域が浸水しにくく、安全かを確認しましょう。



2 マップを見て自分の家の周辺の避難所を確認しましょう。 P10～P45

3 洪水災害が起きてしまったらの「避難の心得」をよく理解しましょう。 P7

●いざという時には、自主的に安全・確実に避難できるようにしましょう。

●グループあるいは各家庭で、洪水時にどのように避難行動するのか話し合いましょう。

4 地域のグループで集まり、自分たちの地域で洪水被害や避難について、話し合いましょう。

5 地域のグループで避難ルート等について話し合い、避難経路や自分たちの避難所を設定しましょう。

●避難所へ行くのにどのような経路があるのか調べましょう。

●マップに示されている浸水区域を参考にし、避難経路は浸水しにくい道順を2～3選びましょう。

●浸水時に通行不可となるような地下道や土砂災害危険箇所等は避けて設定しましょう。

●夜間や浸水時には、道路と水路の区分が分かりにくくなります。ガードレールや電柱などが目印となる道路を選びましょう。

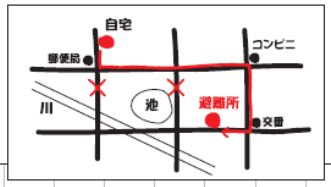
6 避難に関する情報の伝達が、どのように行われるのかを確認しましょう。 P9

●洪水時に発信される情報を聞き漏らさないようにしましょう。

7 わが家のハザードマップを作成しましょう。

●わが家の避難所、避難経路、家族の集合場所を下の地図に書き込んでみましょう。

作成例→



わが家のハザードマップ

※危険箇所等を考慮して下書きし、油性マーカー等で清書しましょう。

我が家の所在地

※この紙をご自分の家のあるマップページに差し込んでヒモで綴じ込み、必要な時にすぐに開ける見出しとしてお使いください。